

TOKYO AIDS WEEKS

2018

12月1日の世界エイズデーの前後の期間に様々なNGOやグループと連携しながら情報発信を行います。この時期にぜひHIV/エイズに関する最新の知識やリアルな声に触れてみてください。あなたのイメージを最新のものにアップデートしていただく一助になれば幸いです。

詳細はTOKYO AIDS WEEKS 2018のWebサイトをご覧ください。

aidsweeks.tokyo

U=U

UNDETECTABLE EQUAL UNTRANSMITTABLE

U=U(Undetectable = Untransmittable/検出限界以下なら、感染しない)というメッセージは、効果的な抗HIV治療を受けて血液中のHIV量が検出限界以下のレベルに継続的に抑えられているHIV陽性者からは、性行為で他の人にHIVが感染することはない、ということを表すものです。近年多くの国際的な研究によって、このU=Uの科学的エビデンスが確認されました。多くの人がこのU=Uのメッセージを知ることによって、自分自身とHIVとの付き合い方やパートナーとの関係をより良いものにし、さらには社会におけるHIVに関連したスティグマ(負の烙印)を減らすことにつながります。

ふれいす
トーク

アフリカ難民キャンプのLGBTとHIV ～トランス女性の嶋田さんとゲイ写真家の藤元さんが語る

日時:2018年11月25日(日) 14:00～16:00(13:30開場)

会場:CASE Shinjuku(新宿区高田馬場1丁目28-10 4F) 入場料:無料

ゲスト:嶋田聡美さん(虹ともアフリカ)、藤元敬二さん(写真家)

2018年8月、嶋田聡美さんはケニアにあるカクマ難民キャンプのLGBTI難民たちを訪問し、彼らとともにキャンプ内で数日過ごし、LGBTIであるという理由で、逮捕されると脅され、怯えながら生きるとは、どのようなことなのかを経験した。藤元敬二さんはドキュメンタリー写真家。2014年から15年にかけての一年、ケニアやウガンダに暮らしながら現地のゲイの人々の撮影を続ける。2017年にはゲイとして育った自らの人生を東アフリカのゲイの友人たちと掛け合わせた半自叙伝的写真集『Forget-me-not』を出版。カクマにも二度の訪問経験がある。



共催:NPO法人ふれいす東京、虹ともアフリカ ptokyo.org

世界エイズ・デー記念礼拝

日時:2018年11月25日(日)17:00～18:00

会場:牛込聖公会 聖バルナバ教会(新宿区矢来町65)

世界エイズ・デー記念礼拝は1995年から毎年、世界エイズ・デーに近い日曜日に開かれています。キリスト教の形をとって礼拝がなされていますが、いかなる宗教の方々や無宗教の方々の参列も歓迎しています。今年のメッセージには、日本のLGBTシーンを見守り続けてきた大塚隆史さん(造形作家/新宿 パー・タックス ノット店主)をお迎えしています。どなたでもお越しください。



主催:日本聖公会東京教区人権委員会、宗教とLGBTネットワーク、カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク、ルーテルHIV/AIDSプロジェクト
問い合わせ:佐々木(090-8593-6129)

Visual AIDS Day With(out) Art 『知られざる結末、アクティビストの蜂起』上映

日時:2018年12月9日(日) 19:00～20:00

会場:community center akta(新宿区新宿2-15-13 第二中江ビル 301)

入場料:資料代500円

12月1日にVisual AIDSが「アートの(ない)日」のためにニューヨークで世界初上映する映像作品を字幕付きで日本初上映。アメリカの6つの刺激的な団体による短編ビデオを通し、AIDSアクティビズムにおけるアートと今日のアドヴォカシーの影響を紹介する。彼らの幅広い戦略(直接的なアクションから全国的なムーブメント構築のための草の根運動まで)を通し、それぞれがどのようにクリエイティブな方法で今も続くAIDS危機に対して活動してきたかを浮き彫りにする。参加団体はACT UP NY、Positive Women's Network、Sero Project、The SPOT(Safe Place Over Time)、Tacoma Action Collective、VOCAL(Voices Of Community Activists & Leaders)。



上映時間は40～50分を予定。詳細はこちら: normalscreen.org

Day With(out) Art 2018 logo designed by Nelson Santos 主催:ノーマルスクリーン

聞こえる人、聞こえない人、どちらにも分かる HIV/エイズ予防啓発動画プロジェクト

HIV陽性者の中には、ろう者もいます。20代の時にHIV感染が分かった聴覚障害のあるAさんは、まさか自分がHIVに感染するとは思っていなかったとのこと。「自殺を考えたこともある」と言います。HIV感染の予防と治療には情報が必要です。現在は、インターネットや動画、パンフレットなどで情報を得やすくなりましたが、ろう・難聴者たちはそこから抜け落ちてしまっています。手話が第一言語である人たちの中には、在日外国人と同様に専門的な内容を日本語で理解することができない人もいます。そこで、聞こえる人、聞こえない人どちらにも伝わるよう手話と字幕、音声付きのHIV/エイズ予防動画を12月1日の世界エイズデーに向けて制作しています。クラウドファンディング実施中。



motion-gallery.net/projects/hiv-movie

Gay Men's Chorus for TOKYO AIDS WEEKS 2018

日時:2018年12月8日(土)15:00～

会場:国立国際医療研究センター中央棟B1アトリウム

入場:無料

2015年から連続で開催しているゲイトランス男性による合唱ミニコンサートです。このイベントのために集まったメンバーが、心を込めて歌います。豊かなハーモニーをご堪能ください。

【曲目】『Climb Ev'ry Mountain』、『さやかに星はきらめき(O Holy Night)』、『すてきなホリデイ』、『ロマンスの神様』、『森明菜メドレー』、『上を向いて歩こう』

指揮:なおき ピアノ:ようた



主催:TOKYO AIDS WEEKS 2018 事務局:NPO法人ふれいす東京

Cross Border Café × akta tag tour

日時:2018年12月16日(日)14:00～17:00

会場:EAGLE TOKYO BLUE(新宿区新宿2-11-2 カーサヴェルデB1)

入場料:1,000円 別途ドリンク代

トークゲスト:田亀源五郎(漫画家/ゲイ・エロティック・アーティスト)

MC&パフォーマンス:ブルボンヌ(女装パフォーマンス/ライター)

パフォーマンス:肉襦袢ゲブ美(ドラッグクイーン)、JUJU(歌手)

長谷川博史(JaNP+)、マダムボンジュール・ジャンジ(ドラッグクイーン/akta)

DJ:JUNYA

あらゆるボーダーを超えていこうとする人たちに贈る「Cross Border Café」と、「akta tag tour」のコラボレーションイベント。HIVを持っていても、そうじゃなくても、私たちはもうすでに一緒に生きてる。We're already Living Together.



主催:NPO法人 日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス、NPO法人akta
協力:Living Together計画

TOKYO AIDS WEEKS 2018事務局

東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403 NPO法人ふれいす東京内

Tel:03-3361-8964 tokyoaidswk@gmail.com

担当:生島・加藤

主催:TOKYO AIDS WEEKS2018 協賛:ウィーブヘルスケア株式会社